

青森県立保健大学広報誌
活彩! 保健大学だより

November 2013

Vol.30

Campus Magazine



大学祭

「Rainbow ～心を繋ぐ架け橋～」

10月12日(土)、13日(日)、「2013青森県立保健大学大学祭」が開催されました。今年も趣向を凝らした出店をはじめとし、地元よさこいチームによる演舞やお笑い芸人を招いてのお笑いライブ、映画の上映会や音楽・ダンスの発表などの企画で大いに盛り上がりました。

初日から雨が降ったりやんだりという不安定な天気ではありましたが、時折見える晴れ間に後押しされるかのように会場も賑わいを増していき、模擬店の食べ物やグッズを抱えて楽しそうに会場を闊歩する来場者で溢れました。

今年度の大学祭のテーマは「Rainbow～心を繋ぐ架け橋～」です。学生が力を合わせて作り上げるこの大学祭が、地域交流のきっかけとなつて、地域や大学の活性化に繋がってほしいという学生たちの願いが込められています。

恒例となった花火の打ち上げでフィナーレを迎えた今年度の大学祭もまた、地域の皆さまの御理解と御協力のもとに無事終わることができました。

津軽三味線サークル

私たち津軽三味線サークルは、プロの先生に教えていただいた曲や先輩から引き継いだ曲を習いながら、毎日楽しく演奏しています。最近では大会に出場するようになり、悲願の優勝を目指して、日々奮闘しています！



硬式テニスサークル

こんにちは！硬式テニスサークルです。私たちのサークルは主に水・木曜日の活動ですが、それは建前で実は毎日テニスでちゃうんです！運動不足のそこのあなた！ぜひ私たちと一緒にテニスをしていい汗流しましょう！



A-knotサークル

A-knotは1歳の出来たてほやほやのサークルです。栄養学科生がメンバーに多かったため、食に関すること、食べ歩きや料理教室、スイーツ作成を通して地域に貢献しようと頑張っています！食いしん坊で頑張れる人は是非！



アカペラサークル in chapel

私たち、アカペラサークルin chapel(インチエイペル)は、歌が好きな人が集まり、ハーモニーを奏で、喜びや感動を皆さまでに届けるサークルです。私たちと一緒に、“ハモる”楽しさを味わいながら感動を届けましょう♪



スナップコレクション

スナップコレクション。その活動は、もはやスナップ撮影だけにとどまらず、いろいろな事に取り組んでいます。例えば、鬼ごっこ。例えば、ピクニック。みんな仲良くやっている、そんな素敵なサークルです！



ソフトテニスサークル

私たちソフトテニスサークルは毎週火曜日と金曜日に活動しています。経験者や未経験者関係なく、みんなで楽しくテニスをしています。休憩中にはわいわい話をするなど、とてもなごやかな雰囲気のサークルで、楽しい大学生活をさらに充実させています♪



野球サークル

野球サークルでは週2回の練習と、社会人参加の大会に出場する他、キャンプやBBQなどで親睦を深め、楽しく活動しています。メンバーの約半分をマネージャーとして女子が占め、中には初心者もいます。来年もより良いチームになれるよう頑張りたいです。



サッカーサークル

サッカーサークルは『青森市社会人サッカーリーグ』に所属し、リーグ戦、カップ戦に参加しています。選手・マネージャーともに毎週2回の活動を楽しんでいます。サッカーを通して楽しい大学生活を送りましょう！



ソフトボールサークル

こんにちは。私たちソフトボールサークルは毎週土曜日に活動しています！毎年障害者チームと交流試合も行っており、大学生活ならではの体験をしています。メンバーには未経験者もあり、みんなで和気あいあいと楽しく練習しています(^^)



学 外 実 習

各学科で行われた学外実習の感想をご紹介します。

看護学科

基礎看護実習Ⅱ

患者さんの今の状態を分析し、必要な看護を考えるという目的で行われた基礎看護実習Ⅱで2週間、県立中央病院に伺いました。患者さんに合わせて看護計画を立てるのですが、患者さんの変化は早いので、その時その時の状況に合わせて計画を変えていくことが大切なことを改めて実感でき、患者さんの個性を大切にしたい看護を提供できたと思います。悩みも大きかったですが、学びが多く、充実した、楽しさを感じることでした実習でした。

左から横山理子さん、松坂晴香さん、杉本彩さん、立崎加奈さん、佐藤智穂さん、高橋潤さん。

青森県立中央病院 7階東病棟で
実習した皆さん

理学療法学科

臨床基礎実習を終えて



中央が別府さん。

今回、学外で行われた実習では、たくさんの方のことを学び感じることができました。急性期、回復期、維持期それぞれの理学療法場面を見学することができ、そこでの患者さんと会話することで、理学療法士は患者さんの身体を預かり生活に大きく関わる職業だと改めて思い、その責任を痛感しました。患者さんに安心して自分を任せてもらえるような理学療法士になるために、今回学んだことを生かしていきたいと思いました。

理学療法学科1年 別府 綾佳

社会福祉学科

精神保健福祉援助実習Ⅱ



後列左から4番目が木村さん。

私たちが4年生14名は、精神保健福祉士を目指しています。『精神保健福祉援助実習Ⅱ』では、精神科病院や地域生活支援を行う施設等で実習しました。精神保健福祉士は、精神障害を抱える方が円滑に生活を営めるよう、それを妨げている要因に気づく力が必要であり、精神障害者が置かれている環境とその影響を把握することが大切だと学びました。自分が精神保健福祉士だったらどのように関わるか、できることは何かを考えながら関わるのが学びにつながりました。

社会福祉学科4年 木村 千里

栄養学科

公衆栄養学臨地実習



右が藤原さん、左は同じゼミの神さん。

私は6月24日から28日まで岩手県中部保健所で臨地実習に行き、現場の管理栄養士の方から行政栄養士の業務について指導していただきました。実習に行く前は口頭試問や事前課題があり『大変だな』と思っていましたが、保健指導など実際の業務に接することで座学だけでは曖昧だった知識が深まったと実感しました。花巻市の保健センターや経腸栄養剤の企業を見学するなど学内ではできない経験もあり、行政で働きたいと考えている私にとっては本当に実りある実習ができたこと感謝しています。

栄養学科3年 藤原 香織

地域連携・国際センター

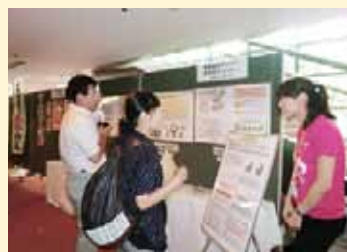
ケア付き青森ねぶた

今年度も本学共催で第18回ケア付き青森ねぶたを実施し、学生67名、教職員32名がボランティアとして参加しました。ボランティア養成講座(単位認定講座)、オリエンテーション、直前説明会、各班の顔合わせを経て、障害を持つ参加者を全力でサポートしました。活動終了後には報告会を開催し、ボランティア活動を通じて学んだこと、感じたことなどを発表し、来年のボランティア参加に役立てました。



出展活動① 健康あおもり21 ステップアップ県民大会

9月4日(水)青森県が主催する健康あおもり21ステップアップ県民大会にブース出展しました。健康寿命アップに関連する本学の研究成果について、各学科からパネル展示をしました。「早世の減少と健康寿命の延伸により全国との健康格差の縮小」を実現するため、公益社団法人青森県栄養士会と本学栄養学科が連携協定を締結しました。



出展活動② みんなでスポーツ アップリートフェスタ

9月8日(日)青森県教育委員会が主催するみんなでスポーツ アップリートフェスタに出展しました。酸素飽和度等の測定(看護学科)、呼吸機能の測定(理学療法学科)、健康チェック(社会福祉学科)、食生活チェック(栄養学科)を行い、たくさんの方が健康に関心を持っていただけたようです。



その他、たばこと健康フェア(9月8日・サンロード青森)、ネコクラフト展(6月26日～30日・さくら野百貨店青森店)、リレー・フォー・ライフ・ジャパンIN八戸(6月22日～23日・八戸市長根運動公園)にも出展しています。



保健大学に出展してほしいイベントがありましたら、お気軽にご連絡ください。

出展に関するお問い合わせ
青森県立保健大学
地域連携・国際センター
TEL.017-765-4085

韓国インジェ大学校との国際交流

本学では、平成14年度から韓国釜山市にある仁済(インジェ)大学校と国際交流を実施しています。今年度は、7月9日～8月10日に、仁済大学校の学生4名が来学し、本学や県内関係機関での研修を行いました。また、7月10日には、仁済大学校の安徳賢(アントクヒョン)教授を講師に、講演会を開催し、安教授のグループが開発した座ったまま使える運動治療装置についてご紹介していただきました。本学からは、理学療法学科の学生2名が8月29日～9月14日に仁済大学校を訪れ、仁済大学校の学生と共に授業参加や附属白(パク)病院での研修を通して理学療法を学び、ソウル市内で身障者センターを見学しました。両大学の学生にとって、互いの国で学び、交流できたことは、貴重な経験になったことと思います。今後も多くの学生が交流を行なえるようサポートしていきたいと思っています。



研究推進・知的財産センター

1. 研究推進・知的財産センター実施イベント紹介(一部)

①大学は美味しい!!フェア

期間・平成25年5月29日(水)～6月4日(火)

会場・新宿高島屋11階 催会場

- 概要**
- ・「もち小麦」使用商品の試食販売
(栄養学科 藤田 修三教授)
 - ・「アピオス」使用商品の試食販売
(栄養学科 岩井 邦久教授)



会場内イトインにおいて、お客様に商品説明を行う藤田教授(写真左)と、アピオス商品を手に販売活動を行う岩井教授(写真中)・栄養学科学生さんも大活躍!!(写真右)

②平成25年度 第1回知的財産権セミナー

(併催・第1回青森市がんばる企業交流会)

期間・平成25年7月23日(火)

会場・青森県立保健大学

- 概要**
- ・特許庁担当者による知的財産政策紹介
 - ・看護分野における先駆的な研究活動紹介
 - ・青森県内外においてものづくりを行っている企業様および全国看護系大学における研究事例紹介
 - ・本学看護学科における知的財産活動紹介

③おいらせ町観光PRセンター「味祭館」感謝祭

期間・平成25年11月3日(日)

会場・おいらせ町観光PRセンター 味祭館

- 概要**
- もち小麦、アピオス、ガズミ使用商品試食販売



本学マスコットキャラクター「モーリー」もお客様をお迎え♪



味祭館を運営している「百石ふるさとの味研究会」の皆様と栄養学科学生との交流も深まりました!

2. センターが支援する「プロジェクト型研究」について

センターでは、青森県の保健医療福祉における重点課題の解決に特に寄与すると考える研究課題に対し、より効果的な研究活動の遂行のため、学科横断的なプロジェクトを結成し、活動を支援しております。

①自殺対策プロジェクト

本学社会福祉学科・看護学科教員を中心にプロジェクトを組織。自殺の原因はさまざまですが、最大の要因はうつ病です。青森県内市町村と連携し、うつ病スクリーニングおよび陽性者のフォローを実施しております。自殺者の減少に貢献しています。

②下北地域プロジェクト

本学看護学科教員(小児看護学)を中心にプロジェクトを組織。青森県内でも特に小児の肥満傾向が強い下北地域において、青森県教育委員会等と連携し、子どもの活動量や運動強度の調査を実施しながら、これを他府県のデータと比較することにより、肥満の原因究明と対策のためのプログラム構築を目指しております。

③保健指導モデル構築プロジェクト

本学看護学科教員(地域看護学)を中心にプロジェクトを組織。青森県で問題となっている、壮年期男性の生活習慣病対策として、職域壮年期男性に焦点を当て、健康教室参加者から(参加していない人々へ)の教育波及効果を意図した保健指導モデルを開発、青森県内企業で実行していく形で、職場全体の健康増進に向け取り組んでおります。

★ プロジェクト代表教員からお知らせがございます! ★

青森県内の企業様におかれまして、生活習慣病予防をテーマとした健康教室を開催しております。企業様におかれましては、以下のメリットがございます。

1. 健診データ、アンケートの分析により事業所全体の健康課題がわかります。
2. 健康教室の講師料が節約できます。
3. 社員全体の健康づくり対策に活用できます。
4. 費用はかかりません。

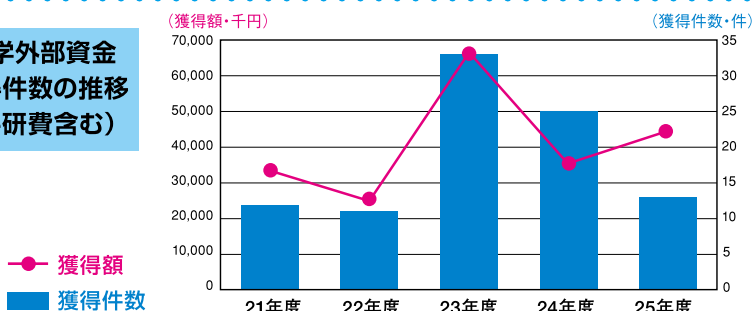
興味を持たれた方はご一報ください。詳しい説明に伺わせていただきます。

お問い合わせ
担当:看護学科 千葉 敦子 准教授
電話017-765-2052

3. 外部研究資金受け入れ実績について

本学教員の研究費獲得実績について報告します。微増微減を繰り返しておりますが、概ね右肩上がりの実績と言えます。

本学外部資金
獲得件数の推移
(科研費含む)



研究コラム

看護学分野



当大学には卒業生がキャリアを積むための大学院が開設されています。看護学領域では病院で働く看護師・助産師の実践能力をさらに拡大し深めるために『専門看護師(略称CNS)』コースを開講しています。担当領域は『母性看護』で、現在、助産師の大学院生が学んでいます。研究の領域は周産期であり、出産や子育て中の親を理解し、看護に役立てるための研究を進めています。CNSコースの院生は『長期の入院による子育ての困難さや親役割をどのように果たそうとしているか』について研究を進めています。



教授 大井 けい子

理学療法学分野

高齢者の肺炎の大部分は誤嚥性肺炎であり、呼吸筋(腹筋群)のⅡ型線維の弱化からくる咳嗽力の低下が関連しています。呼吸筋の非呼吸性活動には咳嗽、嚥下、排便、発声などの役割があり、山下研究室ではこのような非呼吸性活動の低下を予防するための呼吸筋トレーニングや腹部神経筋電気刺激などの研究をしており、石岡君にはこれらに関連する研究をしてもらう予定です。



山下准教授

石岡新治君

准教授 山下 弘二

地域保健福祉学分野

「地域保健福祉学分野」は、「地域」を共通の基盤として、看護・理学療法・社会福祉・栄養の複合領域としての特徴をもっています。管理栄養士の資格をもつ学生が4名在籍しており、保育所における多職種連携による栄養・給食管理、国際協力における栄養プログラムの評価、若年男性肥満の食習慣要因、慢性疾患患者の栄養管理の地域連携パス等が研究テーマとなっています。現場実践の方々との意見交換の場などを通じて、現場の課題解決につながる研究成果が得られるよう取り組んでいます。



教授 吉池 信男

健康栄養科学分野

健康増進や生活習慣病予防を目指した食育についてスポーツ栄養学の視点から検討し、主にジュニアアスリートの食の自己管理能力育成のための効果的な栄養教育プログラムの開発と検証を行っています。その中で、博士前期課程1年の篠原春佳さんには、学部卒業時からスポーツ栄養、特に水分補給と食生活との関係に焦点をあてた調査研究を指導しています。

このような調査と介入により、地域の健康増進やジュニアアスリートの競技力向上につながる効果的な栄養教育に関する研究を大学院生や学部生とともに取り組んでいます。



ゼミで吉岡先生(左)から指導を受ける篠原さん(左から2人目)と学部生。



准教授 吉岡 美子

今後の学部・大学院入試日程

学部

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表	入学手続
一般入試	前期日程	平成26年 1月27日(月)～2月5日(水)	平成26年 2月25日(火)	平成26年 3月6日(木)	平成26年 3月6日(木)～3月14日(金)
	後期日程		平成26年 3月12日(水)	平成26年 3月21日(金)	平成26年 3月21日(金)～3月27日(木)
特別選抜	私費外国人留学生	平成26年 1月27日(月)～2月5日(水)	平成26年 2月25日(火)	平成26年 3月6日(木)	平成26年 3月6日(木)～3月14日(金)

大学院

第2期募集

出願資格認定 審査申請期間	平成25年12月24日(火)～27日(金)
出願期間	平成26年1月20日(月)～24日(金)
選抜試験	平成26年2月8日(土)
合格発表	平成26年2月14日(金)

博士前期課程

募集人員	第2期 15名
選抜区分	「社会人特別選抜」及び「外国人留学生選抜」を含む
選抜方法	「一般選抜」、「社会人特別選抜」及び「外国人留学生選抜」 選抜試験、出願書類等により総合判定 ※選抜試験は英語、専門科目(理学療法学分野のみ)、面接を実施

博士後期課程

募集人員	第2期 4名
選抜区分	「社会人特別選抜」を含む
選抜方法	「一般選抜」及び「社会人特別選抜」 選抜試験、出願書類等により総合判定 ※選抜試験は英語、口述試験を実施

就職セミナー

6月の県内・外就職合同説明会に引き続き、7月20日(土)に理学療法学科対象就職合同説明会を理学療法学科4・3年生がほぼ全員参加して実施されました。就職活動セミナーを外部講師を招き学年別テーマに沿って年間13回開催予定です。



4年生向け就職活動セミナー



理学療法学科対象就職合同説明会

国家試験対策

9月27日、看護学科4年生を対象に、平成26年2月に実施される看護師国家試験の対策講座が開催されました。当日は83名の学生が参加し、真剣な表情で受講していました。看護学科では、保健師・助産師・看護師国家試験対策の模擬試験を実施し、さらに保健師と看護師については、国家試験対策講座を定期的に開催しています。



保護者等 懇談会

大学祭の初日10月12日(土)に後援会主催の保護者等懇談会をC棟3階講義室で実施しました。

保護者の方々66名がご参加され、全体会及び学科別に分かれた学科別プログラム・個別相談等で熱心に討論されました。



高田後援会長の挨拶



上泉副学長の挨拶

中期計画の遂行状況について.....学長からのメッセージ

いつのまにか季節がめぐり、保健大学のキャンパスも赤黄色と彩られ、澄み切った空気の中を行き交う学生さんの姿が新鮮に映る毎日です。後援会の皆様にあっては如何お過ごしでしょうか。皆様の本学への変わらぬご支援に心から感謝いたします。

さて、本学が法人化して早6年目になります。今回は、中期計画の遂行状況についてご報告いたします。平成20年の法人化にあたり、設置団体である県から6年間の中期目標が示されました。本学は更に目標を具現化するための中期計画を立て、毎年業務の実績について自己評価を行い、報告書を青森県地方独立行政法人評価委員会に提出し、評価をいただいております。評価項目は、全部で8項目①教育②研究③地域貢献④業務運営の改善及び効率化⑤財務内容の改善⑥自己点検及び評価ならびに情報の提供⑦その他の業務運営⑧予算)あり、5段階で評価されます。

平成24年度の業務の全体的実施状況は、達成目標135項目中、年度計画に上回って実施しているとするS評価項目が5項目(3.7%)、年度計画を十分に実施しているとするA評価項目が116項目(85.9%)、年度計画を十分には実施していないとするB評価項目が14項目(10.4%)、年度計画を実施していない

とするC項目が0との結果でした。結果に対して評価委員会から、“平成24年度の全体的実施状況は、一部取組に遅れがみられる事項があるものの、全体としてほぼ計画通りに実施され、総じて順調な進捗状況にある”との評価をいただきました。

また、第1期中期目標期間(平成20年度から平成25年度まで)の終了に当たり、平成24年度は、設立団体である青森県が地方独立行政法人法に基づき、保健大学の業務を継続させる必要性、組織のあり方の他、組織及び業務の全般にわたる検討を行う年でもあります。

検討の結果、5年目を迎えた平成24年度は、特に教員の教育能力の向上や学生へのキャリア支援の強化などにより、各種国家試験合格率及び就職率については高水準を維持しており、成果を上げた事が高く評価されました。最終的には、“保健大学は、本県の目指す「命と暮らしを守る」社会の実現に向け、人材育成及び地域貢献活動において重要な存在意義を有しており、公立大学法人としての保健大学の組織体制は、今後も継続する必要がある”とのご判断をいただきました。

今後も平成25年度が中期目標期間の最終年度であることを踏まえ、より一層の取り組みを強化いたします。同時に、次期中期目標に向

かい理事・教職員が一丸となり本学の使命を適切に果たすべく県民や地域社会の貢献に向けた取り組みを推進したいと、思いを新たにしております。

地域に根差し、地域社会に愛され、青森県の健康を支える大学として、努力を惜しまず励む所存です。

今後とも、皆様方の変わらぬご支援の程よろしくお願いいたします。



青森県立保健大学 学長
リボウイツ よし子



平成25年度 青森県立保健大学卒業証書 学位記授与式(9月修了)

平成25年度青森県立保健大学卒業証書 学位記授与式(9月修了)が執り行われました。今回、大学院健康科学研究科健康科学専攻 博士後期課程から1名が課程を修了し、学位記を授与されました。

修了する学生がただ一人ということもあり、リボウィッツ学長からの式辞も通常とは少し異なり、学生個人との思い出に溢れたもので、その言葉の一つひとつに頷く学生の姿が印象的でした。

大学院博士後期課程修了おめでとうございます。大学院で学んだことを糧に、今後ますますご活躍されますことをお祈り申し上げます。



発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学